

## 眼瞼下垂

ウインクも、瞬間的で意図的なものなら胸がドキドキするかも。でも、それが持続的なものなら、どうだろう。

76歳のT子さん。「4、5日前から右のまぶたが下がって、ものが二重に見える」と言う。ひょっとして、脳動脈瘤<sup>脳動脈瘤</sup>じゃないか。動眼神経麻痺<sup>麻痺</sup>ではないか。診察する手も震えそうになる。

右のまぶたが下がったまま開眼しにくいT子さん。眼瞼下垂<sup>眼瞼下垂</sup>だ。右の眼球の動きがわずかに悪く、ものが二重に見える。複視という。でも、頭は痛くない。以前にも症状はないと聞いて、少し落ち着いた。

脳動脈瘤は、破れれば致命的なくも膜下出血を起こすことがよく知られている。破れなくとも、瘤<sup>瘤</sup>が大きくなって近くにある神経を圧迫し、神経麻痺を起こさせることもある。

頭のMRI（磁気共鳴画像）とMRA（磁気共鳴血管画像）の検査をする。が、脳動脈瘤はもちろん、脳腫瘍などもみられない。

Tさんには、眼瞼下垂や複視はあるが、瞳孔の大きさの左右差はみられない。光を当てると、瞳孔は小さくなる。となれば、糖尿病が原因として考えやすい。少しの間はかかるだろうが、良くなる可能性はある。

もちろん、眼瞼下垂はいろいろな原因で起きる。生まれつきの場合や、加齢に伴うことも少なくない。70〜80歳になると、まぶたを動かす筋力が低下してくる。左右差はあるが、両側ともまぶたが下がってくることもある。

最近、高齢で発症する重症筋無力症（MG）も増えているという。MGの眼瞼下垂は、夕方に症状が強いという特徴があり、日によって症状が変動したりする。一側性（体の片側にだけ症状などが出る）の場合もまれではないというから、注意が必要だ。

患者さんは、したくもないのにウインクしているのだ、たいへんな病気が隠れているかもしれない。診察する医者は、いつも身震いしている。

（石黒修三＝いし黒ろく三ツク・脳神経